

くお問い合わせいただいても、開催予約がいっぱいで1か月先でないとい開催できない状況が生まれてしまうなど、運営体制にも課題が残りました。次年度は、できる限り希望日に開催できる体制を敷いていきたいと思います。

## 注文書回収増の取り組み

○目標回収枚数1,322,084枚(昨年度対比106.6%) **成果と課題**

コールセンターで対象を絞った電話がけをすることにより、受注率が若干上がる事が判りました。あいネット・サポートでは長期休止者の掘り起しを実施しましたが、再開率は1割未満でした(1,160名対象、95名再開、再開率7.5%)。発行停止者の掘り起しは実施出来ませんでした。拡大計画の未達、発行停止タイミングの変更の影響で発行枚数が伸びず、回収計画も未達に終わりました。回収率は上がっている為(昨年度73.6%、今年度74.7%)、前向きにとらえれば無駄な発行を抑えることが出来ていると言えますが、発行停止防止の取り組みも見直す必要があると考えます。

## 《事業の分野》

「ひとつ上の安心」を基本に、安全・安心の信頼を確かなものに。

○自然派Style商品

**成果と課題**

自然派Style商品の認知度を上げるため、年間6回カタログの表紙を使い定期的なアピールをおこないました。また、11月1日には1周年記念として、自然派Style商品を使ったレシピの募集をおこないました。レシピ募集は11件の応募があり、6件を入賞レシピとして2月2回の商品案内に3件を掲載し、ホームページに6件を掲載しました。2018年度にPB化した商品は19品となります。



3月3回企画において4ページを使い、食材セットと定番商品を一緒に利用することでボリュームアップやマンネリ化を解消するアレンジ提案をおこないました。食材セットの利用は今期2番目の高実績となりました。

## 《組合員活動の分野》

多くの組合員の活動参加を目的としたコミュニケーションの促進を図ります。

○組合員活動

**成果と課題**

各活動グループに対し中期計画を軸とした、これからあいち生協が目指す組合員活動について説明、理解の為の話し合いを、述べ11回おこないました。引き続き、共有と理解を深め積極的に対話を重ねていきます。また新規のテーマ活動グループとして遺伝子組み換えについて学ぶ「パクパク」が準備会として立ち上がりました。



○おしゃべりひろば

**成果と課題**

2018年度の開催数は延べ54回、524人の組合員が参加しました。活動を広げる為、体験会を催し、その中から2名のサポーター組合員が生まれ、昭和区「GREEN CAFE」、緑区「みどり」として、新たなおしゃべりひろばがスタートしました。体験会は、組合員も参加しやすく、体験会に参加した組合員がそのまま「おしゃべりひろば」のメンバーになり、活動を広げる土台となっていますので、今後も継続しておこなって行きます。



## 《生協運営》

経営改革をさらに進め信頼される組織・魅力ある組織を作り上げます。

○みなし脱退

**成果と課題**

2018年度みなし脱退処理の報告 昨年に引き続き、あいち生協定款第10条2項に沿って、21名の脱退処理をおこないました。詳細は下記の通りとなります。

- 対象者組合員……………21名(10万円以上の滞納があり行方不明組合員)
- 預かり出資金……………45,400円
- 未収金額合計……………3,611,939円
- 未収金額内訳
- 利用代金……………3,575,339円
- 注文時出資金……………36,600円(未収金と相殺)

\*預かり出資金  
45,400円は  
雑収入として計上。

◎対応状況

- 9月……………所在確認の手紙を郵送。宛先不明で全員返却、みなし脱退対象組合員とする。
- 12月……………理事会で提案。
- 1月……………ホームページで公示。
- 3月……………理事会承認後、脱退処理。

○遺伝子組み換え食品

**成果と課題**

5月1回企画の商品案内で遺伝子組み換えについてカタログ掲載のマークの見方、遺伝子組み換え作物の現状を発信するとともに国産原料商品の推奨をおこないました。12月2回企画商品案内の表紙では田原牛の利用促進を行い、非遺伝子組み換え飼料を与えていることを打ち出しました。現在、取り扱いのある約6,000品目について遺伝子組み換え原料が使用されている状況は下記の通りです。



- 不使用⇒25%
- 主原料⇒18%
- 不分別⇒17%
- 対象外⇒40%

遺伝子組み換え作物の排除に向けて不分別商品の取り扱いを10%以下にする取り組みを継続的におこないます。

○種子を守る取り組み

**成果と課題**

日本の種子を守る会及び、遺伝子組換え食品を考える中部の会と連携し、愛知県議会へ「愛知県主要農作物種子条例」についての請願書を提出しました。また、日本の種子を守る会に協賛し作成した「種子はみんなのもの?それとも企業の所有物?」のDVDが完成し、組合員理事や活動グループへの貸し出しをおこないましたが、組合員や職員参加の鑑賞会の開催ができず課題が残りました。

○国産無農薬有機栽培の野菜の取り扱いの拡充 **成果と課題**

国産無農薬有機栽培野菜の拡充を進め全体の約4割が有機栽培野菜となりました。また、野菜の共同調達、共同物流を目指したコープ自然派事業連合との連携強化を進めました。具体的には、コープ自然派事業連合の子会社(株)コープ有機へアイチヨイスも出資し、経営に参画するとともに、アイチヨイスの農産部門を(株)コープ有機へ統合し、農産物の共同仕入事業を開始しました。

○産地直結、地産地消

**成果と課題**

愛知県知多市の生産者丸山さんの「地産丸山さんの無農薬野菜セット」を5月1日より導入しました。年間で企画回数31回、総利用点数3,862点と一定の支持があり、定着しています。ご近所野菜企画は7月3回、11月4回に実施しました。生協マルシェは実施できませんでした。水産物は3年連続で小女子漁が禁漁、あさりの不良など今期も厳しい状況が続きました。地産水産物の利用実績は、冷凍しじみ、うなぎ、いわし商材など合計で総点数33,412点 総供給金額で5,403万円の結果でした。原料がある商材をしっかり利用推進して行きます。

○商品案内カタログ

**成果と課題**

4月1回商品案内カタログより40ページ固定化を実施しました。同時にカテゴリ(分類)の企画商品数を調整して品揃えの充実を図りました。